

2006年5月～

## 人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会

〒567-0883 茨木市大手町 7-26

FAX 072-626-6519

E-mail [yoshihara@gold.ocn.ne.jp](mailto:yoshihara@gold.ocn.ne.jp)

---

社会保険歯科診療報酬点数が「一連の事件をふまえて～」という頭書きがついて改定されてから、早くも1ヵ月が過ぎました。

いわゆる「かかりつけ医院」を持ちましょう、科学的根拠をふまえて「インフォームドコンセント」を重視しましょう、というかけ声と「8020」運動はどこへ消えたのでしょうか。相互信頼によって医療の向上を目指していたはずが、文章によって疑いをはらそうという小心な医療へと変わってしまっていないでしょうか。予防医療を越えた保健医療を目指していた先生方のうめき声が聞こえてきます。しかし日本国首相の「人生いろいろ、～」※と「解釈の相違」という言葉をお借りすれば、判断の仕方は人それぞれ、地域それぞれ、症例それぞれの解釈をすることが可能だということになりましょう。もちろん、約束事は約束ですから、基本的には守らねばなりません。約束事以外の高度な技術や最新の医療機器を使いこなせる能力の持ち主は、どんどん進んで応用すべきときだと思えます。

※ 「約束をはたさなかったとしてもそれは大した事ではない」

### － 研究会研究 －

人間歯科学研究会の平成18年度の研究は歯周病、生活習慣病（高血圧・糖尿・睡眠時無呼吸症候群など）患者の口臭や血中酸素濃度に着目して、平穴植毛歯ブラシ使用のブラッシングによる変化の追跡です。

結果は口腔衛生学会で発表されます。

### － ニュース －

ご存知の通り、身体の成長発育に最も影響のある、食事を楽しくしっかり噛めるようになるには咀嚼学習が必要です。最近話題になっている「食育」の基本となる部分です。

具体的には...

- a) 乳を吸ったり、飲み込んだり、よだれをたらしたりしながら3歳まで食物の取り込みに始まって、噛みつきや噛み切りを学習しながら修得します。いわゆる前歯噛みの学習期です。

- b) 3歳を過ぎると、噛み砕きやすいつぶしを繰り返し学習することによって、6歳までに奥歯噛みを修得して咀嚼能力が身につき、咬合位が決定します。人間科学（生理学）上では、6歳以降に「挽回」するのは大変困難なことだとされています。

1 口 20 回噛んでから飲み込むという毎日の動作の差と、1 日 3 回の食事の内容に差があることによって栄養摂取状態と歯列咬合の発育と発達に個人差が生じるのだといわれています。

歯科医院ではこれらの食環境と食育について問診や顎模型、咬合力、パノラマ x-線など各種の検査によって咀嚼学習量や咀嚼能力の発達、或いは低下を判断します。

- 1) ポケ〜ッと口を開けている時間が長い。
- 2) 鼻で息を吸えず、口で呼吸している。
- 3) 食事がしっかり噛めず食物を口に含んだままの時間が長い、あるいは噛もうとしない。(口が乾燥しやすい)
- 4) 噛みしめたり、味わったりする気力がない。
- 5) なかなか飲み込まなくて、食事時間が長い。
- 6) 噛む回数が少ない。
- 7) よく食物を口のまわりからこぼす。
- 8) お喋りや音読時に舌をペロペロと出す。
- 9) 舌を上歯と下歯の間にはさんでいる事が多い。
- 10) 歯ぎしりがきつい。(日中でも歯ぎしりする)
- 11) むし歯になりやすく、歯肉出血がある。
- 12) 唾液がネバネバしていて口臭がある。
- 13) 歯ならびや咬み合わせが気になる。
- 14) 顎の関節が痛かったり音がする。
- 15) 落ち着かず、集中力がない。
- 16) よく風邪をひく。
- 17) 気力がないか気がのらない事が多い、又は根気がない。
- 18) もの忘れがひどいようだ。
- 19) 肩がこったり、まっすぐ立ってられない。
- 20) その他 ( )

などの訴えや症状を認めたときには、「かむ かむ」検査と「かむ かむ」トレーニングを行います。

この度、その名の通り、**チューイングマスター かむ かむ ST**が完成し、株式会社 エーデンタルより発表されました。

噛むトレーニングやリハビリテーションに利用してみてください。